

□議員名：恒松 恵子

1 子どもの読書活動推進について

論点	マタニティ・ブックスタートは開始して20年を迎えるが、その評価を聞く。
回答	マタニティ・ブックスタート事業を起点として、乳幼児から小中学校まで様々な読書活動を促す取組をしているが、令和6年度に子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受けたところであり、マタニティ・ブックスタート事業について一定の効果があったと考えている。

論点	小学校、中学校での読書活動の現状と課題について、また不読率改善のために行っていることはあるか。
回答	本市の小中学校では、子供たちが読書のよさを実感し、進んで読書に親しむことができるよう、朝の読書や各教科における調べ学習での本の活用、季節に関連した本の展示や紹介、保護者や地域のボランティアによる読み聞かせなど、教育活動全般を通して読書活動を行っている。また、昨年度から始まったオンラインを利用するどこでも学校図書館により、1人1台の端末を活用し、市立図書館の図書、電子書籍を借りることができるようになったため、より充実した読書活動につなげている。

論点	社会科副読本のデジタル版「はっけん！山陽小野田」の導入から半年が過ぎたが、デジタル機能を駆使しながら楽しく効果的な学びの場となっているか。
回答	主に3、4年生の社会科の授業を中心に活用しているが、実物に近い教材も掲載されていることもあり、子供たちは様々なコンテンツを有効に活用した学びを行っている。また、学習内容に関連したサイトの情報を読み取りながら主体的な学習をしている。教育委員会としては、子供たちが見る、聞く、感じるなど、楽しく効果的に学べるように、環境、社会情勢の変化に応じながら、適宜コンテンツの更新を図り、内容のさらなる充実に努めていく。

2 読書活動推進によるまちづくりについて

論点	図書館は市民の文化活動推進の場として重要な位置づけである。さらに充実した施設となるよう、来館のきっかけとなる新しい手法を取り入れてはどうか。
回答	現在、フリーWi-Fiを設置している。また、サイエンスカフェなどリラックスして参加できるような行事を開催し、図書館の新たな利用者の創出に努めている。さらに図書館創発会議など図書館利用者が構成されたボランティア団体の主催でコンサートを行うなど新たな利用者の開拓に努めている。常設カフェやコワーキングスペースの設置については考えていない。

論点	地域住民が読書に親しむ場所として地域交流センターの図書室整備や蔵書の充実は重要であると考えているが、現状はどうか。
回答	すべての地域交流センターに図書館の分館や図書室が整備されており、1センター平均2300冊の蔵書がある。蔵書の充実に対する予算の増額は考えていない。

論点	経済産業省はまちの書店を文化創造に間接的につなげる産業の基盤としている。まちの書店維持に対する本市の考えはどうか。
回答	本市も書店が数店舗となり、全国と同様の傾向であると承知している。書店特有の課題に対応した支援が国において進められた場合、速やかに対応したい。

論点	読書活動推進のまちづくりについて、市長のリーダーシップを聞く。
回答	市では、読書活動を一体的に推進していくために、図書館を中心として家庭、学校、地域、関係機関、団体等がそれぞれの役割を担うとともに、共存、共創による取組を進め、幼児から大人まで全ての市民があらゆる機会を通じて、読書活動ができる環境づくりに努めていく。

3 おいでませ山口観光キャンペーンと連動したまちづくりについて

論点	令和８年１０月１日から１２月３１日まで山口県においてデステーションキャンペーン（ＤＣ）が開催されるが、全国に発信できる観光素材などの開発状況はどのようなになっているか。
回答	本市においてはすでに実施している産業観光の充実とともに、観光素材としては、令和９年１月にリニューアルオープンを予定している海辺の駅そらうみを観光交流拠点として、焼野海岸や竜王山、くぐり岩などと絡めたプロモーションを行い、全国から観光誘客につなげられるよう取り組んでいく。

論点	本市独自で観光による交流人口の増加や、考えられる関係者が成果を上げる仕組みづくりについて考えているか聞く。
回答	全国のＪＲ６社が展開する大型キャンペーンであるため、この機会を逃さないよう、海辺の駅そらうみへの集客に加え、市内事業者と連携し本市の特産品のＰＲ及び販売促進を図ることと、デジタルサイネージにより周辺施設と市内への周遊を促すこととしている。